

2026年度国際日本学研究科(博士前期課程)新規授業担当者 授業科目概要

(1) 文化・思想研究領域

演習科目

授業科目名	職格 教員氏名	授業等の内容
文化関係・文化変容演習ⅠA	特任講師 馬場 小百合	日本の古典文学作品について、研究の対象となる作品やテーマを選定し、先行研究の収集とテキストの精読を進める。ゼミでの報告やディスカッションを通じて修士論文のための問いを明確にし、論証に必要な分析や資料収集を進める。
文化関係・文化変容演習ⅠB	特任講師 馬場 小百合	修士論文全体の構造について具体的に見通しを立てつつ、引き続きゼミでの報告やディスカッションを通じて先行研究の収集分析とテキストの精読を進める。また中間発表に向けて準備を進め、プレゼンテーションの練習も行う。
文化関係・文化変容演習ⅠC	特任講師 馬場 小百合	中間発表を踏まえて修士論文の構成やテーマを再検討する。ゼミでの報告やディスカッション、またはゼミ外の教員や研究者にもアドバイスをもらいながら、修士論文の執筆を進める。
文化関係・文化変容演習ⅠD	特任講師 馬場 小百合	修士論文を完成させる。自分の論文の問題意識や到達点、先行研究と比べた時のオリジナリティや今後の研究の展望等について把握し、質疑応答やプレゼンテーションに備える。
文化関係・文化変容演習ⅡA	特任講師 張 佳能	近現代日本の大衆文化史を軸に、諸分野の古典を渉猟しつつ、これから向き合いたい課題を明確にする。学生同士の切磋琢磨を通して、自らの問題意識を高めるほか、研究対象に関する先行研究を調査する。
文化関係・文化変容演習ⅡB	特任講師 張 佳能	課題と問題意識を明確にした上、修士論文の論点と章立ての作成を試みる。中間発表に向けて準備と練習を行い、改善点とさらなる可能性を見出す。
文化関係・文化変容演習ⅡC	特任講師 張 佳能	修士論文の草稿執筆を始め、自らの問題提起や調査結果を文章に落とし込む。論点や構成に問題がないかについて検討を重ね、軌道修正しながら完成を目指す。
文化関係・文化変容演習ⅡD	特任講師 張 佳能	修士論文を完成させる。執筆過程を振り返りつつ、当初の計画と実際の結果を見つめ直し、今後の展開を考える。